

平成 30 年 10 月 20 日
早稲田大学大学院
佐 藤 隆 信

日本安全保障貿易学会研究大会発表資料
「欧州連合（EU）の 武器輸出規制の現状と課題」

1. 背景

- 問題意識
 - 「Conflict Armament Research」が、「イスラム国」の前線で使用された 40,000 点以上の銃・弾薬・爆発物等を調査
 - 2014 - 2017 年にシリアで使用された武器の 30%以上が欧州原産
 - サウジアラビア、米国等を経由し、反体制派の手に渡る事例が多い
- 世界の武器輸出・輸入額
 - 輸出額上位 10 か国のうち、EU 加盟国は 6 か国（全体の 24.8%）が占める
 - 輸入額上位 10 か国のうち、中東諸国は 6 か国が占める
- EU 加盟国の主な武器輸出額と輸出先
 - EU 加盟国の武器輸出額は、€1,959 億で、上位輸出先はサウジアラビア 11.4%、エジプト 9.9%、カタール 8.5%（2015 年）

2. 現状

- EU の武器輸出規制の経緯と概要
 - 2008 年 12 月：「武器輸出に関する共通の立場（EU Common Position）」採択
 - 「武器輸出に関する共通の立場（EU Common Position）」におけるリスクアセスメントの 8 つの基準
- EU の武器輸出規制における主な対応
 - “EU Common Military List”
 - EU 加盟国の情報交換
 - 年次報告書

3. 課題

- EU 加盟国の武器輸出に関するデータ
 - EU 加盟国間が提出する情報の実態

- イエメン内戦の事例
 - 様々な当事国（サウジアラビア連合軍、反政府勢力）、支援国が関係
 - イエメン内戦を受けた EU 加盟国の対応と背景

- 経済的な影響との相関性
 - 大規模な武器輸出の取引事例
 - 石油と武器輸出

- 「新しい技術」に関する対応
 - デュアルユース技術をはじめ新たに登場しつつある技術の応用可能性は広く、管理を行う側にとっても不透明な点が多い